その家で子どもが病気にかかったり、やけどをしないように祈願する。毎年二月には村中の老若女衆が地蔵様をかこみ、祈願祭を開く。この時は、村中が仕事を休んで、もちをついて食べる。

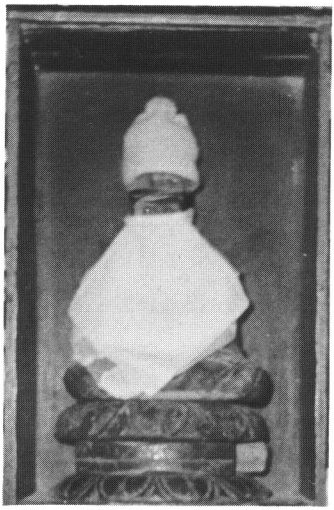
（話者　江連　栄）

宿なし観音

《志　茂》

昔、村の子どもに病名も分からない悪い病いが流行した。村人は、ただ神仏に祈願するより術なく、木彫の子育観音様を造り、祈願したところ、悪い病気が治った。

それ以来、子どもが病気になると、この観音様を借りて行くようになったので、お堂にいることがなく、常に各家を廻り、子どもの成育をお守りした。それで、お堂がないので宿なし観音と呼ぶようになった。また一名廻り観音とも呼ばれている。観音様を箱形の厨子に納めて、隣から隣へと順番に廻して、いつまで留めていても良いので、永く宿して留めて置く家では一、二ケ月以上にもなり、村内を一廻りするのに五、六年かかるといわれる。この観音様は子どもと良く遊ぶので、お姿が大変すりへっている。次の家にお送りす



宿なし観音（志茂）